
アムステルスオンライン

恭啓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アムステルスオンライン

【Nコード】

N9197Y

【作者名】

恭堯

【あらすじ】

世界中で大人気のMMOオンラインゲーム<アムステルス>！ユーザー数約29億人！俺が通っている県内の高校生のほとんどがしていて、自由動も高いし、職業も豊富！

周りの皆は一緒に始めたので、キャラのレベルは結構同じだ。まあ、俺も同じぐらい。

でもそれは二つのキャラの内の一つ。

もう一つのキャラは<アムステルス>で最強と言われている<小旗

御宛>って言う八人だけのギルドの一人だ。

ブログ（前書き）

こんなオンラインゲームがあつたらな〜と思って書き始めました。

ブログが短いですが、お読みくださいm（ ）m

更新は不定期ですが、なるべく早く更新したいと思っています。

ブローグ

三年ほど前からMMOオンラインゲーム<アムステルス>ってのが世界中で流行っている。たった一年でユーザー数は18億人を超えていて、今では29億人以上のユーザーがいる。

職業は豊富で、商人として国を回り商売するもよし、商人の旅を護衛する傭兵として活動するもよし。自由度が高く、結構なんでもかんでもできる。例えば農場とかも。

そんな世界中で大人気なくアムステルスは、俺が住んでる県内の高校のほとんどの生徒がしている。

ギルドって言う団体も作れて、生徒達でギルドを作っていて、同じ学校の生徒が固まっている。情報交換の場所だったり目的のモンスターを倒すため協力してくれる人を探す場所であったりする。時々ギルド同士での対戦もある。最近は近所の別の高校のギルドと対戦していたりする。

で、話しは変わるが、今日は始業式。

先程起きたばかりです。

あと30分で始業式が始まる。

坂を自転車で猛スピードで下っている。

新学期の朝

坂を自転車で下っていくと、アーケードで覆われた商店街が見えてきた。この商店街は多種様々な商品があって行けば、求める商品は大体ある。なので、ほぼ毎日朝から晩まで人が沢山いる。

樋口は右腕の腕時計を見た。

7時40分。

「・・・あと20分」

で、始業式が始まる。

すると、後ろの方から声がした。

「おー、樋口か？久しぶりだなー。」

声の主は同じ寮部屋の大輔だった。

「久しぶりー。で、大輔早速お願いがある。アレどーにかしてくれ」と言っただけ商店街の人々を指差す。

「任せろ！」

大輔はスピードを上げて商店街に突っ込んだ。そして大声で「どいてくれー！」と叫ぶ。人々は大輔と樋口の制服姿を見るなり「遅刻をしそうなかっけいそうな二人の学生」と認識して、道を開けてくれた。

商店街を通過すると樋口達の通っている、光陵大付属光陵高校が見えてきた。

敷地がとんでもなく広い。今では珍しくなった全寮制で、敷地が広いのを利用して男子寮と女子寮に大きく分けている。

二人は遅刻をしないように、時間にゆとりを持って登校をしている生徒達を追い抜いていった。その生徒の中の一人が樋口の自転車の荷台に座ってきた。

「荷物重い。校門まで乗せてくれ……」

荷台に座ってきたのは、遠藤で同じ寮部屋だ。

「OK……ってマジ重いんだけど……」

「教科書全部入れている」

「ふ、ふざけるな……捨ててしまえ」

「やなこった」

校門の近くになると、竹刀を片手に登校している生徒指導の先生が見えてきた。遠藤は荷台から下りて、バックだけ荷台に乗せて走った。

そして校門の所に行くと、生徒指導の先生に話しかけられた。

「先生達皆でお前達は絶対遅刻するって言ってたぞ」とニコニコし

ながら言つので、気持ち悪かった。

自転車小屋に自転車を入れて樋口達は寮部屋に向った。

「疲れたー！」

遠藤は部屋に入るなり大量の教科書が入っていた鞆を机の上に乘せて、ベットに寝転んだ。

「さつさと準備して教室行くぞ」

「あと何分………」

部屋の時計を見た。7時55分。あと5分で始業式が始まる。

「……午後つて授業無いよな」

「無い。閑だ」

遠藤は机の中から生徒手帳を取り出し必要な物だけを鞆に入れて、部屋を出て行った。

「……俺たちも急ごう」

樋口と大輔は遠藤を追って寮の部屋を出て行った。

9月1日。晴天。二学期の始まりの朝の出来事だった。

新学期の朝（後書き）

続きは来週中に投稿します！

・・・できなかったらごめんなさい（つωつ）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9197y/>

アムステルスオンライン

2011年11月27日22時49分発行